



久遠チョコレートのコンセプトを、店舗の壁に。お店に魂を入れる大切な作業です

平成30年10月4日、東京都杉並区荻窪の教会通りに、久遠チョコレート荻窪店がオープンします。久遠チョコレート事業への参入は、社会福祉法人いたるセンターにとつて、悲願とも言える大きな転機であり、また飛躍の契機でもあります。

今から約10年以上前、久遠チョコレート事業の推進者である、一般社団法人ラ・バルカグループの夏目浩次代表理事を訪ねました。パン事業で成功していた彼に、レシピーや販売方法等をご教授いただいたのです。そんなご縁から、口説き落として社会福祉法人いたるセンターの評議員になっていただきました（現在は理事）。

当時は障害者自立支援法の成立前で、「障害者も働くことで社会に参加し、自立と共生を促す」ことが重要と考えていた私の意見

久遠チョコレート事業への挑戦 社会福祉法人いたるセンター 理事長

谷山 哲浩
たにやま てつひろ

は、どちらかと言えば少数派だったかも知れません。措置」というセーフティネットにより、手厚く保護されることが福祉であった時代、夏目さんの「障害者だからといって、月給1万円にも満たない収入しか払われないのはおかしい」という疑問から、さまざまな事業を通じて、その解消に努めていた姿に心を打たれたのです。まさに、同志を見出した思いでした。

今年の8月、全体職員研修において、久遠チョコレート事業への参画を発表するとともに、夏目さんを講師として招聘し、この事業に賭ける思いを伝えていただきました。若く熱い同志が、持てる力の全てを注いでいる事業に参加できたことは、まさに望外の喜びでもあります。

久遠チョコレート荻窪店は、東京地区初の出店であり、都市型の

目次 contents

- 01 久遠チョコレート事業への挑戦
谷山哲浩理事長
- 02 10月4日荻窪店オープン特集
久遠チョコレート、いたるセンターの取り組み
久遠チョコレート、5つのカテゴリー
- 03 日本初、多様な人々が働くチョコレートメーカーを目指して
理事長の一言
- 04 久遠チョコレート、北海道下川町と連携、「SDGsの推進と持続可能な地域づくり」協定を締結！
通所施設のお祭り情報！

モデル店舗にしていきたい、というミッションを持つ、重要な拠点となります。これまで苦勞して培ってきた久遠チョコレートのブランド価値をさらに向上できるように、社会福祉法人いたるセンターも、総力を挙げてこの事業を推進していきます。

優れたものを真似ることは、学ぶことと同義です。模倣することによって経験を身につけ、これを能力化していくのです。また、習うことは慣れることで、物事を反復して慣れることで習熟していきます。

私が夏目さんの事業に学び、習うのと同様に、職員もご利用者様も、新たな事業へのチャレンジを楽しみながら、学習していただきたいと思っています。

生まれ育った地域で暮らし、障害が重くても自己実現できる収入が得られ、休みには自分の好きなことができる。そこに久遠チョコレート事業への挑戦の目的があるのです。

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では、「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 1口5千円（何口でも可）
郵便振り込み 001107128992
（間）330927346 事務局山本まで

10月4日荻窪店オープン特集



久遠チヨコレート、いたるセンターの取り組み



久遠チヨコレート荻窪店は、阿佐谷福祉工房・就労継続支援B型が中心となり、法人も総力を挙げて取り組んでいきます。ここでは、その体制や目標について荒川善夫・統括施設長に聞きました。

どのような体制でこの新事業に臨むのでしょうか？

「阿佐谷福祉工房の就労継続支援B型の新事業として進めていきます。従来の製菓事業を発展させる考えです。新事業の久遠チヨコレートはオールB型体制で臨むつもりです。成功させることしか考えておりません」
荻窪店の開店で、期待すること、目標はありますか？
 「東京初進出ということで、



久遠チヨコレート豊橋本店での研修風景



いろんな個性が織り成す、一口サイズのチョコレート。荻窪ロツシェ

ラ・バルカグループからは当フラッシュチャイブズグループのフラッグシップとなるよう期待されておりますので、その期待に応えていきたいと考えています」
夏目理事も掲げているように、ご利用者様の工賃アップについてはいかがですか？
 「ラ・バルカグループの実績で

ある、就労継続支援B型の工賃4万円以上を目指したいと思っています」
地域との共生という点では、荻窪店での活動をどのように考えていますか？

「まずは教会通り商店街の方々と上手く付き合いながら、障害者支援の一つの形として認識していただき、できることなら当商店街のどこかのお店とコラボレーションしていきたいと考えています。さらに、荻窪店のオリジナルチョコレートを杉並区に所縁のある食品を使ったもので開発していきたいと思っています」
最後に、意気込みをお聞かせください。

「久遠チヨコレート荻窪店の生産活動・販売活動を通じ、地域社会での活躍の場をさらに広げていきたいと考えています。地域の皆様、ご利用者様やご家族の皆様、久遠チヨコレート荻窪店をどうぞよろしく願っています」

久遠チヨコレート、5つのカテゴリー

久遠チヨコレートの商品戦略は、「ブランド価値を向上させながらも、誰も排除しない」とともに、「余計なカテゴリー開発はしない」というもの。ミニでは、基本の5本柱の商品を紹介いたします。

ミニに紹介する5つのカテゴリー

グリーが、久遠チヨコレートの基本アイテム。これをベースに無限の種類が可能なラインナップです。選べる楽しさや、自分の好みを見つける喜びを感じてください。



②フィアンティーナ



①テリーヌ



⑤ディスカバリーチップ



④おかき



③ドライフルーツ

日本初、多様な人々が働く チョコレートメーカーを目指して

30センチのボウルの中で、溶かして固めるだけの作業。誰も排除しない夢の食材「チョコレート」と出会った、理事・夏目浩次さんのストーリーをご紹介します。

一般社団法人ラ・バルカゲループは、2003年に愛知県豊橋市において障害者を雇用したパン屋を開始。以来、県内外で多数の障害者が働く事業モデルを創出し、多様な就労支援事業を展開してきました。2014年から「全国夢のチョコレートプロジェクト」を開始し、障害者や引きこもりの方、障害児のママさんなど多様な方々が働くチョコレートブランドとして「久遠チョコレート」を立上げ、東京・大阪・京都など全国の大手百貨店に新店をするなど、チョコレート業界の新興ブランドとして注目を集めています。現在、約330名以上の多様な方々が働き手となり、国内20店舗、33拠点の全国ブランドとして展開をしています。

代表理事の夏目浩次さんは、

「土木コンサル会社に勤務していたときに読んだ「小倉昌男の福祉革命―障害者の月給1万円からの脱出」で、月給が3〜4千円という障害者が置かれている現状に顎然としました。障害があるから給料が安いのは「仕方がない」のか。障害者に健常者並みの賃金を支払うとしたら、どんな商売があるのか。パン屋にはじまり、カフェ、飲食店、名刺印刷と事業領域を広げつつ試行錯誤を重ねました。慣れない分野で上手くいかず借金だけが膨らんでいき、もうだめかとあきらめかけたそのとき、知的障害がある店員が商品の名前と価格をノートに書き、必死に覚えようとしているのを見ました。その姿を見たとき、このままあきらめてはいけない、と決心したのです。そこで出会った食材

が、チョコレートでした」

商品に一定の品質を求めようとすると、重い障害者は対応できず、排除しなければならぬ、という課題に対して、

「チョコレートは、溶かして固めるだけ。失敗したらまた溶かして作り直せ、小さな修正はドライヤーで熱を加えれば調整できます。緊張感を強いられることなく、自分のペースで仕事ができる食材であり、自然界では唯一、「人に時間を合わせてくれる食材」なのです」

こうした特性を持つチョコレート



久遠チョコレートの生みの親である、夏目浩次さん。当法人の理事でもあります。

を通じて、多様な障害者を雇用して社会の期待に応えたい、というのが夏目さんの願い。

「熊本店では、ひきこもりや不登校の高校生が11名、アルバイトで働いており、名古屋店は2階に障害児の支援事業所があり、重い障害を持つお子さんの母親がここに子どもを預けて働いています」

誰も排除せず、多様な人々が誇りを持って働けるチョコレートメーカー「久遠チョコレート」。この事業に参加できることを幸せに思います。

理事長の一言

「敬天愛人（けいてんあいじん）とは、
天（森羅万象）を敬い、人（万人）を愛する」

「敬天愛人」は、「天を敬い人を愛する」という意味で、『南洲翁遺訓』という書物の中に収められている名言です。「道は天地自然の物にして、人は之を行ふものなれば、天を敬するを目的とす。天は人も我も同一に愛し給ふゆゑ、我を愛する心を以て人を愛する也」。この一節を要約すると、「物事の道理は、天によって自然と決まっているからこそ、天を敬い、その意思に従うのである。また、天は自分を含む人間たちを平等に愛するものであり、自分を愛するのと同様に人を愛することが大切である」となるのでしょうか。実はこの「敬天愛人」は、京セラの社是にも採用されている言葉であり、また日本航空が経営破綻した時に京セラの稲盛和夫氏が会長として再建を任されたときに参考にした言葉でもあります。アメーバ経営を進める当法人でも、こうした敬いの気持ち、愛する心を一人ひとりが持ちながら、日々、精進していくことが大切だと思います。



西郷隆盛



谷山理事長も列席、夢のチョコレート工場の実現へ！

久遠チョコレート、北海道下川町と連携、 「SDGsの推進と持続可能な地域づくり」協定を締結！

持続可能な地域づくりに関する連携



協定書署名後の記念撮影（左から、柘植氏、谷氏、夏目氏）

株式会社ベルシステム24ホールディングス（東京都中央区）、久遠チョコレート（運営：一般社団法人ラ・バルカグループ 本社：愛知県豊橋市）、下川町（北海道上川郡下川町）はこのたび、ソーシャル・イノベーションやフェアトレードを通じたSDGs（持続可能な開発目標）の推進と持続可能な地域社会の実現を目的とし、2018年7月31日、連携協定を締結しました。下川町は今後、株式会社ベルシステム24ホールディングス及び久遠チョコレートと連携し、廃校を利用して障害者雇用のできるチョコレート製造事業に取り組み、官民パートナーシップによるSDGsの推進と持続可能な地域づくりのモデル事例を創出します。なお、商品の一部はフェアトレードによる原料調達を実施し、世界のSDGs達成にも貢献します。

<各社の役割>

■ 株式会社ベルシステム24ホールディングス

ベルシステム24社員が、チョコレート工場に勤務、製造を行う。製造されたチョコレートは、同社の来客者、顧客、従業員向けに提供を予定。

■ 一般社団法人ラ・バルカグループ

久遠チョコレートのブランドをもとにした事業コンテンツと障害者雇用等のノウハウを提供する。

■ 北海道下川町

SDGsパートナーシップの実践の場としてチョコレート製造拠点を整備する。

一般社団法人ラ・バルカグループ

代表理事 夏目浩次氏 挨拶概要

今回の協定は、久遠チョコレートがブランドの根源とする「誰も置き去りにしない」という想い・考え方からも、大変重要な事業であると考えています。3者が連携をし、互いの資源や強みを活かして産業と雇用をつくり、持続可能な地域づくりをしていくこのモデルは、まさにSDGsの新しい形であり、地方創生の1つのあるべきモデルとなると考えています。このモデルを下川町から全国へ発信し、「活力ある日本づくり」に寄与していきたいと考えています。



チョコレート製造拠点予定地(旧下川町立一の橋小学校)

SDGsとは

SDGs（エスディー・ジーズ：Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標）とは、世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標と169のターゲットです。2015年9月、SDGsの前身であるMDGs（ミレニアム開発目標）を継承し、国連で採択されました。貧困問題をはじめ、気候変動や生物多様性、エネルギーなど、持続可能な社会をつくるために世界が一致して取り組むべきビジョンや課題が網羅されています。地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っており、日本も積極的に取り組んでいます。



いたる広報委員

発行責任者＝谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL：03-3392-7346
FAX：03-3391-8039
Eメール：info@itarucenter.com
HP：http://www.itarucenter.com/
発行日／平成30年10月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。



通所施設のお祭り情報！

社会福祉法人いたるセンターの秋のお祭りが各所で開催されます。地域の皆様のお越しを心よりお待ちしております。各所自主生産品の販売もごさいます。



9月29日 ほんちょうまつり
(目黒本町福祉工房)
Tel：03-3714-0514 蓬田まで



10月13日 あげぼのまつり
(あげぼの作業所)
Tel：03-3395-1441 文野まで



11月17日 阿佐福まつり
(阿佐福福祉工房)
Tel：03-3392-7347 齋藤まで

ボランティアを随時募集中！